

# 日本政府出展事業について

——いさちゅ、いさちゅの、あいだに

経済産業省商務・サービス審議官  
兼商務・サービスグループ長

畠山陽二郎

はたけやま ようじろう



## 今年度の日本館の検討状況について

経済産業省では、2025年大阪・関西万博での日本政府出展事業(以下、日本館)に向け、検討を進めております。2021年4月に策定した日本館基本構想を具体化するため、2021年度は、「2025年大阪・関西万博政府出展事業検討会議」(座長・鳥井信吾氏)を設立し、8名の有識者の方々とともに日本館基本計画案の検討を進めてまいりました。日本館総合プロデューサーである佐藤オオキ氏(デザインオフィスnendo代表)を中心とした事務局からの提案に対し、有識者の皆様から多様な視点から御意見をいただき、この春、日本館基本計画を公表するに至りました。経

団連の古賀信行審議員会議長におかれましては、有識者として「2025年大阪・関西万博政府出展事業検討会議」に御参画・御貢献をいただき、感謝を申し上げます。

## 日本館の検討の視点について

日本館は、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン(Designing Future Society for Our Lives)」をホスト国としてプレゼンテーションする拠点となります。日本古来の自然観・死生観を踏まえつつ、様々ないのちそのもののあり方に向き合いながら、持続可能で、個々のいのちが尊重される豊かな未来社会への展望を示唆する館を目指してまいります。

また、日本の世界に対する貢献のあり方を示す観点からは、テーマに関する日本独自の取り組みの発信、SDGsの達成やSDGsの先の議論への貢献、Society 5.0の実装といった視点を持つことが必要と考えています。さらに、出展に際しては、次世代・多様性ある主体による参画機会の確保や、国際的相互理解の促進も欠かすことのできない観点です。

## テーマを踏まえた日本館のあり方(コンセプト)について

以上のような検討の視点を踏まえ、日本館基本計画においては、日本館のあり方(コンセプト)を提示しております。

① 日本館が目指す来場者体験

昨今、持続可能性の問題に対する関心は高まりつつある一方で、生活者一人一人の日常において、地球に共に生きる他のいのちへ目を向け、環境の改善に対して具体的な思考を巡らす機会は多いとはいえません。持続可能性の問題は決して自分に関係のないことではなく、地球という1つのいのちの束(船)の中で巡り巡って私たちやその子孫の未来に直結する問題であり、未来社会の作り手たる私たち一人一人が、問題を自分達のこととして認識し、その解決に向けて具体的なアクションを起こしていく必要があります。

日本館のテーマは、「いのちと、いのちの、あいだに—Between Lives—」です。日本館では、他のいのちと自分のいのちが繋がっていることに気付くことで、地球で起こっている持続可能性の問題を自分たちのこととして認識するとともに、「炭素中立型の経済社会」や「循環型社会」といった未来社会の実現に向けて一人一人のアクションが必要であることへの共感を促します。その結果、世代や国籍を問わず、全ての来場者に未来社会へのアクションを促し、さらに、日本館の体験を経た人々、とりわけ子どもや若者をはじめ

めとする「万博チルドレン」が、いのち輝く未来社会のデザインをリードしていくきっかけとなることを目指します。

② 展示体験について

日本館においては、私たちが未来において目指すべき「炭素中立型の経済社会」や「循環型社会」の一部を象徴的に切り出し、来場者体験として提供します。

具体的には、いのちといのちを発展的につなげ、1つの循環を創出することを考えております。二酸化炭素・廃棄物の排出削減の取り組みを行ったうえで、それでも残ってしまったものを、人の手で循環に戻していく技術・仕組みを実装し、その結果生み出されたものを来場者自身が加工する・食する等の体験を経たうえで、廃棄物を再び循環に戻していきます。

このような体験を通じて、二酸化炭素や廃棄物に対して様々な役割があるという認識の変化のきっかけを提供するとともに、地球上の全てが大きな循環の要素であることに對する気付きの機会を提供し、発展的に循環をつないでいくことで、持続可能で豊かな未来社会を構築していく可能性を訴えます。

さらに、持続可能で豊かな未来社会を目指すためのアクションを来場者に促すため、そのきっかけとなる展示体験を来場者に提供します。日本は古来、自然の循環の中で豊かな文化を育んできました。そのような日本文化や技術、日本的な発想を手掛かりに、循環と共にある社会の実現に向けた3つの要素、「循環を見据えたものづくり(循環を見据えたプロダクトのあり方)」「はかなく小さな生き物(微生物の活用)」「次のいのちへのリレー(知識や技術の発展と継承)」に着目し、日本における最新技術を織り込んだ展示体験を提供します。

基本計画の策定を受けて、2022年度はより展示を具体化していく計画であります。また、2023年度以降、会期前からのコンセプトの浸透をはかるため、コミュニケーション(広報)施策を実施していく予定です。

終わりに

日本館に限らず、大阪・関西万博の開催準備に関しましては、経団連および所属の企業の皆様に多くの御貢献を賜り、感謝に堪えません。3年後に世界に誇るべき万博となるよう、引き続き御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。